

# 介護 ビジョン 8



第2特集 入居者のQOLを改善 成功する排泄ケア

第1特集 キーワードは「活動」と「参加」



# リハビリ 大変革時代に 立ち向かえ!



## リハ職に求められる新たな役割

——結城康博(淑徳大学総合福祉学部社会福祉学科教授)

### 【老健】

- 社会福祉法人康和会 介護老人保健施設ろうけん くがやま
- 医療法人森田記念会 介護老人保健施設プロスペクトガーデンひたちなか
- 医療法人社団協友会 介護老人保健施設リハビリケア かつしか

### 【通所リハ/訪問リハ】

- 医療法人社団永生会
- 医療法人社団輝生会 在宅総合ケアセンター元浅草/株式会社ガイア

### 【通所介護】

- リハビリ推進センター株式会社 リハビリテーションデイスクール和
- はっぴ〜ライフ株式会社 はっぴ〜ライフ吉祥寺事業所
- リハビリ企画合同会社 リは職人てい

## 介護保険制度の目的を理解しないと生き残れない

——小室貴之(在宅療養支援 楓の風グループCEO)

——渡邊明子(在宅療養支援 楓の風グループ通所介護事業部長)

「自分で行う」ことこそが「活動」「参加」につながる

——藤原 茂(夢のみずうみ村代表)



紹介事例

## [事例3] 通所介護

## 多種多様なプログラムで対応 課題はさらなるエビデンスの強化

リハビリ推進センター株式会社 リハビリテーションデイスクール和(のどか)  
はっぴーライフ株式会社 はっぴーライフ吉祥寺事業所  
リハビリ企画合同会社 りは職人でい

リハビリの目的に「活動」「参加」等を含めた生活機能向上が明示され、その趣旨を踏まえ、通所介護での個別機能訓練加算の内容が変更された。具体的には利用者宅を訪問したうえで個別機能訓練計画を作成すること等が新たな要件となった。サービスのさらなる重点化が進められていくなかで、今後は通所介護でのリハビリの意味が問われていくことになる。各事業所の対応を取材した。

(取材・文/やまだおうむ)

「これまでの取り組みが  
評価された」との声も

「個別機能訓練の加算要件の変更で、『活動』『参加』が加えられたのは、私どもの事業所の取り組みを、国がある程度評価してくれた証左だと考えています」

リハビリ特化型短時間デイ「リハビリテーションデイスクール和(のどか)」を運営するリハビリ推進センター株式会社(東京都板橋区)の阿部勉代表取締役はこう話す。

開設以来、利用者の生活環境や「リハビリを通してどうなりたいか」という希望をヒアリングしたうえで作成した個別プログラムに従って、段差を昇降するなど筋力強化訓練に意欲的に取り組んできた。

事業所としての最大の特徴は、3カ月間の機能訓練プログラムの後、理学療法士(P.T)、作業療法士(O.T)、言語聴覚士(S.T)、看護師らとともに、静岡県伊豆稲取温泉や長野県の昼神温泉へのリハビリ旅行を年4回(春・秋2回)実施し、成果を「お披露目」として発表することだろう。「旅行内プログラム」では、駅の階段の昇降や、

電車の乗り降りを皆の前で行う。現地の温泉組合をはじめ町全体がバックアップしてくれるという。費用は介護度別に設定し(1日1万2000円)、介護の負担が多くなるほど金額が上がる仕組みだ。

このリハビリ旅行について、阿部代表が解説する。

「かつてPTとして病院勤務をしていたとき、機能訓練で成果を出した患者さんが、いったん自宅に戻ると、元の木阿弥になるケースをよく目にしました。やはり継続的な機能訓練は不可欠であり、そのためには強力な動機付けが必要です。利用者は旅行というハレの舞台をめざし、日常生活でも努力するようになるのです」

旅行から帰った後、本人が希望した成果がどの程度達成されたのか「振り返り」を行い、次期プログラムを定める。



リハビリ推進センター株式会社  
の阿部勉代表取締役



リハビリテーションデイスクール和が行っている利用者とのリハビリ旅行

ラムが組まれる。

興味深いのは、「リハビリ友の会」を設けていることだ。年3回の会合にはスタッフも参加して歓談する。

今後の展望について阿部代表は、「次の30年に向けてリハ職にしかできない新たな取り組みを行うことで、通所介護でのリハビリの存在を国にアピールしていきたい」と言葉を強める。

**フィットネス業界のノウハウをアレンジし  
新たな訓練法を追求**

一方、従来の発想とはまったく

# リハビリ大変革時代に立ち向かえ!



はっぴ〜ライフ吉祥寺事業所のスタッフたち。左から、小田寛隆トレーナー、當麻正性ヘルパー、加藤匡輔生活相談員

別のアプローチでリハビリに取り組む事業所もある。介護経営コンサルタントとして著名な辻川泰史氏が運営する「デイサービス」は「はっぴ〜ライフ吉祥寺事業所」(東京都武蔵野市)では、昨年から利用者に対して「ファンクショナルトレーニング」を参考にした機能訓練を行っている。欧米アスリートの間で人気の身体トレーニング法で、筋力を向上させるとともに体幹の安定性を高める作用もあり、高齢者には転倒防止に役立つという。監督を務める小田寛隆トレーナーは、「2013 Best Body Japan 日本大会」準グランプリ受賞の経歴を持つアスリートで、「日本でもお馴染みのブラジリアン体操やラジオ体操も広義では『ファンクショナルトレーニング』に当てはまります。座っていても行えるものも多いため、高齢者のエクササイズには最適です」と話す。



小田トレーナーと看護師による機能訓練



ボクササイズを行う利用者

さらに今年からは、新たな試みとして元キックボクシングのチャンピオンで現在、同社でヘルパーとして勤務する當麻正性ヘルパーが中心となり、キックボクシングを活用したエクササイズ「キックボクササイズ」を開始。その狙いと成果について山崎綾マネージャーが解説する。

「楽しみながら腕の筋肉を付けてもらうことが目的です。1カ月はどパンチの動作を繰り返すことで、あまり動かなかった腕が少し改善されてきた方もいます。その結果、しばらくできなかった料理を始め、利用者もいます。現在は、ファンクショナルトレーニングの補助的エクササイズとして実施しています」  
ユニークなのは、スポーツトレーナーのアドバイスを受けた看護師が機能訓練を担当している点だ。また、リハビリの現場では、高齢者扱いされたくない利用者も多く、若者に人気のトレーニング法は受けがよいという。なかには元アスリートと接することで表情が活き活きとしてくる利用者も少なくないそう。

「現在、武蔵野市内で在宅診療に  
取り組んでいる先生が、介護予防を目的として、高齢者や要介護者に向けたカフェ活動を展開しています。先生自身キックボクシングのファンで、今後はカフェと連携を図っていくことも考えています。しっかりした評価シートをつくり、医療的なエビデンスを提示し、効果を実証していくつもりです」  
フィットネス業界のノウハウを介護現場にアレンジして導入することで団塊世代などに対する介護予防サービスとしても、需要が期待できそう。

## 厳しい運営を迫られる短時間型「小規模デイ」

事業所立ち上げ当初から、「活動」「社会参加」等を視野にいたれた生活機能向上訓練を実施し成果を挙げてきたにもかかわらず、基本報酬の減算で厳しい運営を迫られる事業所もある。

東京都立川市にあるリハビリ特化型通所介護事業所「りは職人でい」(運営・リハビリ企画合同会社)は、定員10人のいわゆる「小規模デイ」だが、9人のスタッフのうち5人がPT、OT、STなどリハビリ専門職で占められる。同社の南雲